

国土交通省中国地方整備局は、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」（平成 11 年法律第 117 号）第 8 条第 1 項の規定により、「国道 31 号坂電線共同溝 P F I 事業」の民間事業者を選定したので、同法第 11 条の規定により客観的評価の結果をここに公表します。

令和 8 年 3 月 30 日

国土交通省中国地方整備局長 杉中 洋一

国道 31 号坂電線共同溝 P F I 事業

民間事業者選定結果

令和 8 年 3 月 30 日

国土交通省中国地方整備局

目 次

1. 事業概要.....	1
2. 経緯.....	2
3. 事業者選定方法.....	2
4. 第一次審査.....	3
5. 第二次審査.....	4
6. 審査講評.....	7

1. 事業概要

(1) 事業対象区域の概要

国道 31 号坂電線共同溝 P F I 事業（以下「本事業」という。）

(2) 事業の対象となる公共施設等の種類

- ・電線共同溝（道路法（昭和 27 年法律第 180 号）第 2 条第 2 項の 9 に定める電線共同溝（道路の附属物））
- ・車道・歩道（舗装）
- ・道路附属物（道路照明、道路標識等）

(3) 事業場所

- ・所在地：広島県安芸郡坂町平成ヶ浜 3 丁目地内～
広島県安芸郡坂町横浜中央 1 丁目地内
- ・事業延長：0.8km（道路延長：0.4km）

(4) 事業方式及び事業内容

① 事業方式：

BTO 方式

② 事業内容

- ・電線共同溝（管路部・特殊部・横断部）、車道・歩道、道路附属物の調査・設計、工事及び工事監理
- ・電線共同溝（管路部・特殊部・横断部）の維持管理

(5) 事業期間

事業契約締結日から令和 2 7 年 3 月 3 1 日まで（約 1 9 年間）

(6) 事業の実施

落札者は、事業契約を締結後、本事業を実施する。

2. 経緯

民間事業者選定までの主な経緯は次のとおりである。

・実施方針及び要求水準書（案）の公表	: 令和7年6月25日
・特定事業の選定	: 令和7年8月20日
・入札公告	: 令和7年9月2日
・第一次審査提出書類の提出期限	: 令和7年10月10日
・競争参加資格審査結果通知	: 令和7年10月27日
・第二次審査提出書類の提出期限	: 令和7年12月10日
・開札	: 令和8年2月10日
・落札者の決定	: 令和8年2月18日

3. 事業者選定方法

(1) 事業者選定方法の概要

本事業を実施する民間事業者（以下「事業者」という。）には、PFIや施設の調査・設計から工事、維持管理までの専門的な知識やノウハウが求められる。そのため、事業者の選定にあたっては、事業提案及び入札価格の総合的な評価結果に基づいて決定する「総合評価落札方式」を採用した。

また、審査は第二次審査に進むための応募者の資格及び実績等の有無を判断する「第一次審査」と、第二次審査資料を提出した事業者（以下「入札参加者」という。）の提案内容等を審査する「第二次審査」の2段階に分けて実施した。

(2) 事業者選定の体制

中国地方整備局が「総合評価落札方式」を実施するにあたり、専門的見地からの意見を参考とするために、「国道31号坂電線共同溝PFI事業有識者等委員会」（以下「有識者等委員会」という。）を設置した。

有識者等委員会の構成は以下のとおりである。

有識者等委員会 委員

神田 佑亮	呉工業高等専門学校 環境都市工学分野 教授
村上 恵子	県立広島大学 地域創生学部 教授
山田 希恵	公認会計士
吉長 成恭	一般社団法人ちゅうごく PPP・PFI 推進機構 代表理事
渡邊 一成	福山市立大学 都市経営学部 教授

(五十音順、敬称略)

(3) 有識者等委員会の開催経緯

有識者等委員会の開催経緯は以下のとおりである。

第1回有識者等委員会 令和7年6月9日

第2回有識者等委員会 令和7年7月23日

第3回有識者等委員会 令和8年1月15日

4. 第一次審査

(1) 第一次審査の概要

第二次審査のための提案等を行う入札参加者として適正な資格と必要な能力があると認められるに値する実績を有するかを審査するものである。

中国地方整備局は、応募者が入札説明書等に示す資格要件及び実績等が要件を満たしているか否かの審査を行う。

(2) 応募状況

令和7年10月10日までに2グループの応募があり、競争参加資格があることが確認され、令和7年10月27日に通知した。競争参加資格が確認されたグループは(3)のとおりである。

(3) 参加資格確認グループ

- ・NTT インフラネットグループ

代表企業： NTT インフラネット株式会社

構成企業： 株式会社ソルコム、株式会社オリエンタルコンサルタンツ

- ・大林道路グループ

代表企業： 大林道路株式会社広島支店

構成企業： 株式会社ウエスコ広島支社、株式会社ティーネットジャパン中国支社

5. 第二次審査

(1) 第二次審査の概要

第二次審査は、「総合評価落札方式」により落札者を決定するため、入札参加者の提案内容等を審査するものである。第二次審査の手順は以下のとおりである。

1) 事業提案審査

入札参加者からの提出書類の各様式に記載された内容（以下「事業提案」という。）を審査する。ただし、事業提案に要求範囲外の提案が記載されていた場合、その部分は採点対象としない。

ア 要求水準審査

事業提案の内容が要求水準を充足しているか否かの審査を行う。事業提案が明らかに要求水準を充足しない場合は失格とし、それ以外の事業提案は適格とする。

なお、要求水準とは「要求水準書」（入札説明書 添付2）及び「事業者等が付す保険等」（入札説明書 添付4）に定める要求水準をいう。

イ 事業提案審査

事業提案のうち、内容点項目について、その提案がより優れていると認められるものは、その程度に応じて内容点を付与する。内容点は全体で700点満点とする。

① 有識者等委員会における得点案作成

有識者等委員会において「事業者選定基準」（入札説明書 添付7）に示す内容点項目の内容について優れた提案がされているかを各委員が審査し、評価基準に基づいて各提案の採点を行う。

有識者等委員会は、委員の採点を踏まえて協議のうえ、とりまとめ、得点案を作成し中国地方整備局に提出する。なお、有識者等委員会は、入札参加者に対してヒアリングを実施し、提案内容を確認する。

② 中国地方整備局による審査結果の決定

中国地方整備局は、得点案をもとに、内容点を決定する。

2) 開札

ア 入札価格の確認

入札価格が予定価格の範囲内か否かを確認する。

全ての入札参加者の入札価格が予定価格を超えている場合は、再度入札を行う。

イ 入札価格の点数化方法

入札価格の価格点は、実額での比較を行うこととし、以下の式により算定した点数とする。計算に当たっては、小数点第3位以下を四捨五入する。

最低入札価格

$$\text{入札価格の価格点} = \frac{\text{最低入札価格}}{\text{当該入札参加者の入札価格}} \times 300 \text{ 点}$$

3) 総合評価

予定価格の範囲内の入札価格を提示した入札参加者それぞれについて、1)の事業提案審査による提案の内容点及び2)の入札価格の価格点をもとに総合評価を実施し、落札者を決定する。なお、同点の場合には、くじにより落札者を決定する。

(2) 事業提案審査

1) 要求水準審査

事業提案が要求水準を充足しているか否かの審査を行った結果、応募2グループを適格者と判断した。

2) 第二次審査ヒアリング

事業提案審査過程において、応募グループに対して提案内容を確認するためのヒアリングを実施した。

3) 事業提案審査

事業者選定基準に基づき、有識者等委員会において内容点項目の審査を行った。なお、全ての内容点項目について各委員が採点を行い、それらの採点結果を踏まえ委員会の総意で各内容点項目における審査結果案を作成した。

中国地方整備局は、審査結果案をもとに内容点を決定し、評価結果として確定した。内容点項目審査結果は、以下の表のとおりである。

内容点項目	配点	NTT インフラネット グループ	大林道路 グループ
1 事業の実施方針及び実施体制	65	45.00	33.75
2 資金調達及び収支計画	55	36.25	22.50
3 施設整備計画	345	173.75	222.50
4 維持管理計画	40	30.00	40.00
5 調整マネジメント業務	150	85.00	95.00
6 賃上げの実施	35	35.00	35.00
7 ワーク・ライフ・バランス 等推進の実施	10	0.00	10.00
計	700	405.00	458.75

(3) 開札及び総合評価

令和8年2月10日に開札を行い、入札価格と予定価格を比較した結果、入札価格が予定価格内であることを確認した。この結果、下表のとおり、「大林道路グループ」を落札者として決定した。

入札参加者 (50音順)	内容点 (①)	入札価格 (億円)	入札価格 ≤ 予定価格	価格点 (②)	総合評価値 (①+②)	総合順位
NTTインフラネット グループ	405.00	13.03827856	○	300.00	705.00	2位
大林道路 グループ	458.75	13.85663788	○	282.28	741.03	1位

(4) VFM 評価

落札者の提案内容に基づき VFM の評価を行った結果、約 10.8% の VFM があることが確認された。

項目	値
① P S C (現在価値ベース)	1,384 百万円
② P F I - L C C (現在価値ベース)	1,235 百万円
③ V F M (実額)	149 百万円
④ V F M (割合)	10.8%

6. 審査講評

(1) 総評

本事業は、道路の防災性の向上、安全で快適な通行空間の確保、良好な都市景観の形成やまちづくりの観点から、電線共同溝の整備により無電柱化を行うものであり、民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用することで、効率的かつ効果的な事業実施を図ることを目的として行うものである。

このような要求に対して、2グループの提案は要求水準書の要件を満足しているとともに、これまでの電線共同溝整備におけるそれぞれの企業のノウハウや、新技術を活かした優れた提案がされた。限られた時間の中で、熟度の高い提案をまとめた提案力を高く評価する。

事業者からの提案に関する講評は、次のとおりである。

① NTT インフラネットグループ

事業の実施方針及び実施体制においては、同種事業の知見を生かした実施方針、入札前協定の締結等によるリスク管理体制の構築、代表企業が破綻した場合の対応などについて、秀でて優れた提案があった。

資金調達及び収支計画においては、緊急時の資金確保方法、多層的な財務モニタリングなどについて、秀でて優れた提案があった。

施設整備計画においては、IoT機器を活用した振動・騒音のモニタリングによる生活環境への配慮などについて、秀でて優れた提案があった。

維持管理計画においては、具体的な日常・定期点検方法や、災害時の緊急点検の提案などについて、秀でて優れた提案があった。

調整マネジメント業務においては、地域住民への工事概要の周知方策、占用業者との調整順序などについて、秀でて優れた提案があった。

② 大林道路グループ

事業の実施方針及び実施体制においては、代表企業による安定した業務遂行体制、バックアップ体制の構築などについて、秀でて優れた提案があった。

資金調達及び収支計画においては、代表企業の自己資金活用による金利変動リスクの排除や、代表企業の会計監査人による自己監視体制などについて、優れた提案があった。

施設整備計画においては、地下埋設物情報の精度向上などによる施工段階での手戻りの最小化や、工区分割などによる工程の最適化、低コスト整備手法の導入、生活環境への配慮などについて、秀でて優れた提案があった。

維持管理計画においては、3Dモデルによる維持管理情報等の一元管理や、非常時・災害時を考慮した維持管理体制などについて、特に秀でて優れた提案があった。

調整マネジメント業務においては、鉄道事業者との施工方法の協議内容、占用業者等と

の計画的な調整方法などについて、秀でて優れた提案があった。

(2) 個別講評

① NTT インフラネットグループ

内容点項目	個別講評
1. 事業の実施方針及び実施体制	<p>1-1. 同種事業の引渡しまでを行っている知見を活用した早期かつ確実な無電柱化の実現や、同種事業の構成員で組織する協議会による支援など、事業を実施する上での目標及び重視する点について秀でて優れていた。</p> <p>1-2. 入札前協定の締結などによる構成員間のリスク分担の明確化や、要求水準以上の保険の付保など、各企業の専門性や実績等に応じたリスク分担について秀でて優れていた。</p> <p>1-3. 監査法人と親会社による二重監査体制や、代表企業が破綻した場合の代替企業の想定など、事業の安定性について秀でて優れていた。</p> <p>1-4. 資機材調達や労働力確保等で地元の協力会社を積極的に活用するなど、地域企業の参画・活用について優れていた。</p>
2. 資金調達及び収支計画	<p>2-1. 安定した経営基盤を有する代表企業により直接事業運営を行うなど、資金調達・償還計画・収支計画について優れていた。</p> <p>2-2. 代表企業の自己資金による緊急的な資金確保の方策や、各種の資金確保の方法でも対応不能となった場合の資金調達手法が提案されているなど、事業を安定的に継続するための資金の確保、資金不足時の対応について秀でて優れていた。</p> <p>2-3. 複数の主体による多面的な財務モニタリングや、資金収支計画の細やかな更新による資金管理など、事業安定性確保のための財務上のモニタリング方策について秀でて優れていた。</p>
3. 施設整備計画	<p>3-1. 複数の手法を組み合わせることで現況埋設物を高精度に把握する工夫や、BIM/CIM モデルを用いた計画管路と埋設物との干渉チェックなど、施工段階の手戻りを最小化する調査・設計の具体的な提案について優れていた。</p> <p>3-2. 施工検討のフロントローディングや、掘削土量の最小化による施工期間短縮など、各種工事等の工程を最適化する具体的な提案について優れていた。</p> <p>3-3. 新技術を活用し、作業員の接触事故防止や施工課題等の共有を図るなど、工事における品質確保及び安全性確保並びに周辺交通への影響抑制についての方策について優れていた。</p>

内容点項目	個別講評
	<p>3-4. 施工のデジタル化による路面品質の確保や BIM/CIM を活用した維持管理業務の効率化など、その他の有益な工夫についてわずかに優れていた。</p> <p>3-5. IoT 機器を活用した振動・騒音のモニタリングなど、施工にあたっての生活環境への配慮について秀でて優れていた。</p> <p>3-6. 道路利用者の利便性・快適性に配慮した地上機器の配置計画など、良好な道路空間の形成についてわずかに優れていた。</p> <p>3-7. メンテナンス性に留意した特殊部等の配置計画、ICT 活用や DX によるメンテナンス作業の効率化・省力化など、占有業者への配慮について優れていた。</p>
4. 維持管理計画	4-1. 具体的な日常点検・定期点検の実施方法や、災害時の緊急点検の提案など、維持管理対象施設の経年劣化の最小化、施設性能の維持を目的とした点検及び補修についての方策について秀でて優れていた。
5. 調整マネジメント業務	<p>5-1. 早期の関係機関調整や、各業務段階の調整マネジメント業務全てを代表企業がワンストップ体制で運営する協議会で実施するなど、関係者との早期の合意形成を行う円滑な事業推進方策について優れていた。</p> <p>5-2. 地域住民の理解促進のための整備前後の可視化資料の活用や、BIM/CIM を活用した正確な支障物件調査を踏まえた移転協議など、適切な関係者間との協議・調整方法について優れていた。</p> <p>5-3. 説明会欠席にも配慮した地域住民への工事概要の周知、入線・架空線撤去工事の具体的な調整順序の提案など、工事業務期間における規制箇所等調整及び維持管理対象施設の点検・補修、抜柱・入線等についての協議・調整について秀でて優れていた。</p>
6. 賃上げの実施	全ての構成員から賃上げ実施の表明がされた。
7. ワーク・ライフ・バランス等推進の実施	ワーク・ライフ・バランス等推進の表明はなされなかった。

② 大林道路グループ

内容点項目	個別講評
1. 事業の実施方針及び実施体制	1-1. 代表企業による安定した業務遂行体制、バックアップ体制の構築や、プロジェクトマネージャーによる事業全体の進捗管

内容点項目	個別講評
	<p>理など、事業を実施する上での目標及び重視する点について秀でて優れていた。</p> <p>1-2. 共同提案者間覚書の締結による構成企業間のリスク分担の明記や、リスク管理を担う委員会の設置とリスク管理状況の構成企業との共有など、各企業の専門性や実績等に応じたリスク分担について優れていた。</p> <p>1-3. 代表企業の自己資金による業務遂行や、高い信用力を持ち、全国で PFI 事業の実績を有する代表企業の親会社によるバックアップなど、事業の安定性について優れていた。</p> <p>1-4. 工事の発注や資材・機材の購入による地元企業への発注など、地域企業の参画・活用についてわずかに優れていた。</p>
2. 資金調達及び収支計画	<p>2. 1. 安定的な財務基盤を持つ代表企業自らの資金で事業に取り組むなど、資金調達・償還計画・収支計画についてわずかに優れていた。</p> <p>2-2. 代表企業の自己資金による業務遂行と、それによる金利変動リスクの排除など、事業を安定的に継続するための資金の確保、資金不足時の対応について優れていた。</p> <p>2-3. 代表企業の会計監査人による自己監視体制の構築など、事業安定性確保のための財務上のモニタリング方策について優れていた。</p>
3. 施設整備計画	<p>3-1. 3D レーダ探査による地下埋設物情報の精度向上など、施工段階の手戻りを最小化する調査・設計の具体的な提案について秀でて優れていた。</p> <p>3-2. タスク管理シートなどのプロジェクト管理資料の作成、工区分割による早期着工可能な区間の選定など、各種工事等の工程を最適化する具体的な提案について秀でて優れていた。</p> <p>3-3. 3D モデルの活用による既設埋設物の位置確認など、工事における品質確保及び安全性確保並びに周辺交通への影響抑制についての方策について優れていた。</p> <p>3-4. 通信管路における低コスト整備手法の導入、連系管路工事を考慮した設計による工期短縮など、その他の有益な工夫について秀でて優れていた。</p> <p>3-5. 地上機器の模型利用による合意形成の円滑化、新技術活用による交通規制の早期解放などにより、施工にあたっての生活環境への配慮について秀でて優れていた。</p> <p>3-6. BIM/CIM モデルを活用した整備後の景観確認など、良好な道</p>

内容点項目	個別講評
	<p>路空間の形成についてわずかに優れていた。</p> <p>3-7. AR により、整備後の地上機器を現地で視覚的に確認するなど、占有業者への配慮について優れていた。</p>
4. 維持管理計画	4-1. 点検及び維持管理情報の 3D モデルによる一元管理や、非常時・災害時における災害対策本部の組織など、維持管理対象施設の経年劣化の最小化、施設性能の維持を目的とした点検及び補修についての方策について特に秀でて優れていた。
5. 調整マネジメント業務	<p>5-1. 総合窓口を一元化することによる協議・調整のワンストップ化や、全事業期間での情報共有システムの活用等による継続的な情報共有と監理体制の保持など、関係者との早期の合意形成を行う円滑な事業推進方策について優れていた。</p> <p>5-2. 鉄道事業者との施工方法の協議により、工事中止による工程遅延の防止を図る提案や、施工方法のシミュレーション動画を作成するなど、適切な関係者間との協議・調整方法について秀でて優れていた。</p> <p>5-3. 3D データを用いた視覚的にわかりやすい説明会資料の作成、入線・抜柱時期を明示した工程表による占有業者等との計画的な調整など、工事業務期間における規制箇所等調整及び維持管理対象施設の点検・補修、抜柱・入線等についての協議・調整について秀でて優れていた。</p>
6. 賃上げの実施	全ての構成員から賃上げ実施の表明がされた。
7. ワーク・ライフ・バランス等推進の実施	全ての構成員からワーク・ライフ・バランス等推進の実施の表明がされた。

以上